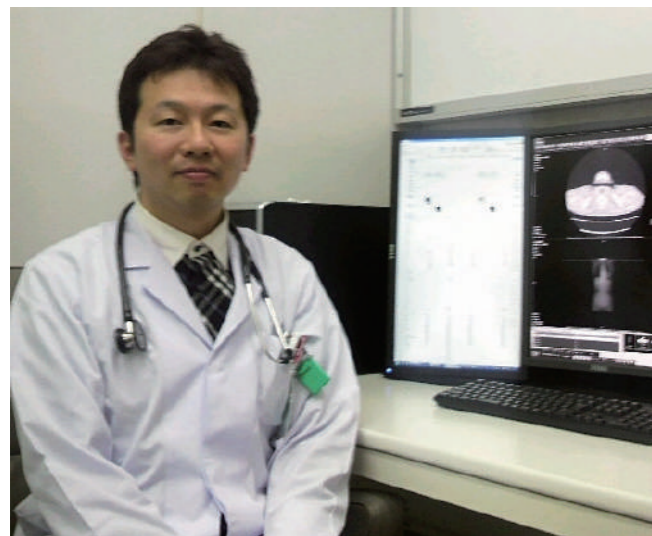


複数の医師が同時に読影できるシステムで業務がよりスムーズに



放射線科 医師 山本泰宏先生

導入経緯

PACSシステムの拡張検討を機に導入

アストロステージのシステムを導入する以前も他社のPACSシステムが院内で稼動していました。しかし、老朽化が進んでおり、読影用端末も1セットのみで、複数の医師が同時に読影できる環境が整備されていませんでした。また平成22年4月から常勤の放射線科専門医も増えたため、PACSシステム拡張を検討することとなりました。

導入に際し、以前のものよりも機能性の高いシステム、電子カルテのような拡張性のあるPACSを導入したいという思いがあり、アストロステージの製品導入に至りました。

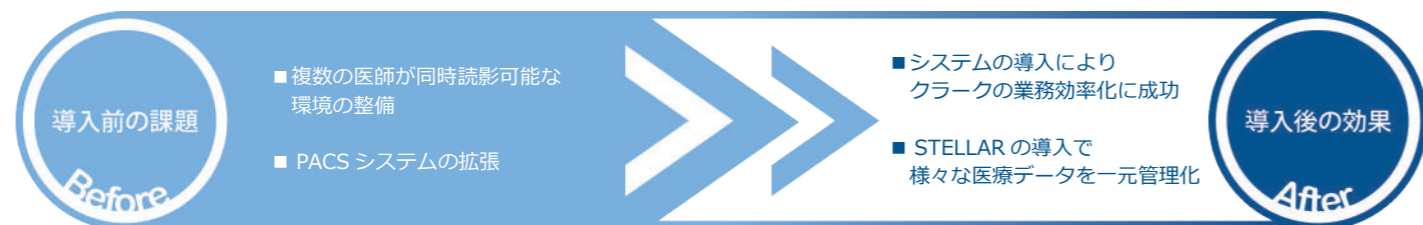
それぞれの製品が高い機能を備え、情報共有まで可能にするシステム

STELLAR、STELLARReport、NazcaViewのそれぞれの製品に魅力を感じ、アストロステージの採用を決めました。

STELLARは検査結果や文書、画像を時系列で同時に参照でき、様々な情報を院内で共有できる点に大きな魅力を感じました。

STELLARReportは放射線科のレポートシステムですが、検査部のレポートをはじめ、診断書や診療情報提供書も作成できる点に惹かれました。

NazcaViewについては、スライス数が多い画像の表示も高速でできる点が評価できました。また、64bitOSの端末にも対応していることも選定のポイントのひとつとなりました。



**導入システム**

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- DICOM 変換ツール **Transfer Tool**
- 診療情報統合システム **STELLAR**
- ドキュメント作成&管理システム **STELLARReport**
- 地域連携システム **STELLAR.NET**

導入効果

フィルムレス化、ペーパーレス化の進行によりクラークや院内スタッフ業務の効率化を実現

フィルムレス化により、保管の手間や保管場所が大幅に減少しました。また、ペーパーレス化も進行し、紙の保管や、これまで行っていた紙をカルテに貼りつけるというルーティンワークの手間が省けることで、クラークの業務効率化に繋がっています。

さらに業務効率化を進めたのは、以下2点の製品機能だと感じています。

まず1点目はSTELLARが心電図の取り込みや他のドキュメント取り込みも可能な点です。これまで心電図や文書はクラークなどが台紙やカルテに貼り付けていましたが、導入に伴い、検査結果や文書の多くをSTELLARに取り込むようにしました。2点目は、エコー画像や内視鏡画像もNazcaViewで閲覧でき、これらの検査レポートもSTELLARReportで記載できる点です。紙に書き、出力する必要がなくなったため、クラークはその時間で他の業務をすることが可能になりました。特にSTELLARは時系列で検査結果、画像、文書が一元管理できるので、カルテを参照しなくても、PACS上で様々な患者情報を共有することが可能となりました。

また、今治第一病院にも同じアストロステージ製のPACSを導入することで、遠隔画像診断を個々の読影端末から同時に行えるよう工夫しました。この際にも依頼内容以外にSTELLAR上に表示される検査結果や診療情報提供書などの文書を参照することができるため、通常の遠隔画像診断に比べ、診断をすすめる上で非常に役に立っていると思います。

放射線第一病院：システム導入時期 / Apr 2011



進む少子化と高齢化の中で、医療技術の高度化や多様化に伴い、患者のニーズの変化が著しい現在、病院は大きな転機を迎えています。特に、高齢者の増加に対し、単に治療と療養の場としての病院から、疾病の予防や医療と福祉の連携など地域に根ざした幅広い医療サービスが求められています。

このような混迷の時代に当院は、変わることのない愛と奉仕の精神を貫き、地域社会に密着した医療に急性期医療の専門病院として取り組んで参ります。

所在地：愛媛県今治市北日吉町 1-10-50

病床数：110床

診療科：内科・放射線科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・泌尿器科  
リハビリテーション科

今後の方針

現在の院内の課題は、どれだけ電子化を進めることができるかということ。アストロステージのシステムでは、電子カルテメーカーからデータを取得することにより、STELLARへの連携、表示が可能になります。

上位メーカーとアストロステージの連携も視野に入れ、今後、オーダーリングシステムや電子カルテなどの導入を検討していきたいと考えております。また、STELLARNetを用いた、病診連携もすすめていければと思っています。

今後の期待・要望

各製品、改善すべき点はありますが、ユーザの意見を柔軟に取り入れながら、製品の機能を高めていくことで他社が真似出来ない、満足度の高い製品になるのではないかと思います。

システム構成図

